

# 京都府

(山城、中丹、丹後)

## ヒメカメノコテントウ利用によるトウガラシの アブラムシ類防除

### 【1. 概要】

- ・ヒメカメノコテントウをトウガラシのアブラムシ類防除に利用する技術の普及
- ・モデル圃場、ピーマン圃場を含めて、8戸の農家が実践(平成26年度比200%)
- ・現場実証により、問題点を明確にして、マニュアル作成  
(精華町、宇治市、舞鶴市等の農家へ配付)

### 【2. 実践内容】

#### (1) 取り組みの背景、経緯

- ・府内の伏見・万願寺トウガラシ類の施設栽培では天敵製剤の利用意識が高いが(概ね100戸の生産者が利用)、重要害虫アブラムシ類の防除については、未だ失敗事例が多く、安定した天敵利用技術確立を求める声が大きかった。そこで、防除効果が安定したヒメカメノコテントウ製剤を実証して、広く普及させることとした(図1、2)

#### (2) 普及拡大に向けたポイント、成功要因

- ・アブラムシ類の初期発生の把握(新芽の定期的調査)
- ・5月上旬頃までは、新芽調査で初発生が把握可能であることを明らかにした
- ・発生を確認したら速やかに放飼(100~200頭/3aを1週間間隔1回以上)
- ・発生源の除去・侵入阻止(防虫ネット、雑草管理、無寄生苗)
- ・天敵に影響の少ない農薬の利用

### 【3. IPMの推進による効果、得られた経験】

- ・ヒメカメノコテントウ利用農家8戸(平成26年度比200%)
- ・実践農家によるテントウムシ類、害虫の自主的調査
- ・実践農家による天敵に影響の少ない農薬の選択



図1. ヒメカメノコテントウ(幼虫)

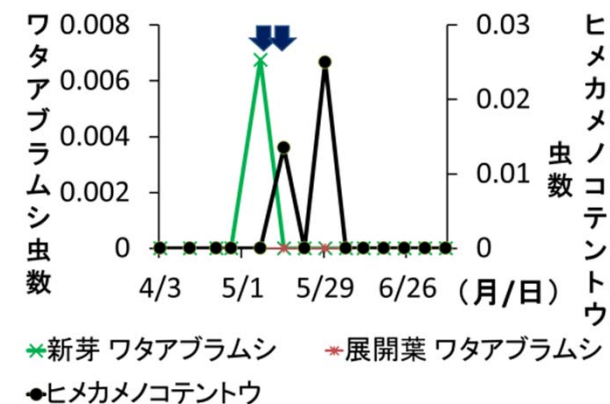


図2. ワタアブラムシ防除の成功例

【問い合わせ先】  
京都府農林水産技術センター農林  
センター環境部鳥獣害担当  
電話：0771-22-6494